

わたぼうし新聞 第20号

発行者：わたぼうし連絡会

発行日：1990年(平成2年) 9月1日 '90 秋号

第20号のテーマ 「障害者と自動販売機」

てくのうた
木偶の詩

塗りの落ちた顔や手足も悲しげな木偶人形
遠い日に神社の森で喜々と舞った木偶人形
黒子に生命をあずける木偶人形
今はおまえをあやつる人もいない木偶人形
そうさ、僕はおまえと同じ木偶人形
母という黒子がいなけりゃ何もできない木偶人形
でも木偶人形にもところがある
木偶人形にもあたたかい生命がある
木偶人形にも夢や希望がある
いつの日か、いつの日か、一人で舞うのだ
舞台上
人生という舞台上で舞うのだ
一人で

この新聞は障害のある人、ない人が自由にそれぞれの考えを出し合い、主義、主張を越えて、お互いが理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

テーマ 《障害者と自動販売機》

今回は私たちが日常生活において、何げなく使っている自動販売機について考えてみます。

編集委員の話し合いより

日常生活を送っていますと、普段は何の不自由も感じていない人たちが、ふと立場や視点を変えますと、その当事者にとっては何と不自由なことなのかと、思うことがたくさんあります。

今回は、当新聞の編集委員で社会生活上において不便を感じたことを、特に視覚障害者の立場からいくつか出しあってもらいました。

自動販売機について

メニューがわかりません。嫌いな物が出ると飲めません。缶ジュース等で熱いもの、冷たいものがありますが、並び方が熱い、冷たいものがメーカーによってバラバラなため、ヤマ感で押すとハズレたりします。寒いときに熱いもので暖まろうと思って、熱いものを買おうとしますと、冷たいものが出ると悲惨。値段の高いもの、安いものの並び方の統一性がバラバラなどがあげられました。

以上のことから、ボタンの上にでも点字の表示があれば便利とのことでした。そこまでは無理でも、せめて、並び方の統一性があれば随分と助かるとのことでした。

例えば、右半分はホット。右より順に値段が高く。コーヒは主に右側というように。

カードについて

度数がわかりません。JRのオレンジカードで料金不足になったら、小銭を追加しないといけません。何のためのカードか？ 特に遠距離で使用すると1枚が一回でなくなります。オレンジカードはあまり便利ではあません。

クレジットカードはサインを必要とするために使えません。現金自動支払機は、昔のは手ざわりで使えましたが、最近のタッチ式だと平面のために位置がわかりません。などなどがたくさん上げられました。

健常者が思っている以上に視覚障害者の行動範囲は広いのです。たぶん、障害者の方は利用しないでしょうと、最初から考えの中に入っていないのだらうと思います。

障害者の社会参加がどんどん進んでいますので、今後、そのような業務に携わっている読者の方がいましたら、ほんのちょっとした配慮で万人が利用しやすくなるということを考え合わせてもらえたら幸いです。

今回のテーマ「障害者と自動販売機」が決定してから、私なりに外出をして自動販売機の現状について調べてみました。

6月に金沢へある行事の取材に出かけて、金沢駅でアテトーゼ（体の緊張）が強い脳性小児マヒの友人とジュース、ビールなどを自動販売機で買ってみました。

しかし、友人は手の緊張が強くて、お金を入れることにとても苦労しているのです。お金の投入口が狭いのです。入れようとしますと、手がふるえてお金が下に落ちます。床に落ちたお金を拾おうとしますと、手でつかむことが難しく時間がかかるのです。でも、なんとかお金を無事に入れることができました。

今度はメニューの選択です。その友人はなんとか歩けましたので、上段のメニューでも選択できたのが、車いすの場合はボタンの位置が高くて、押しにくいことがわかりました。

次は金沢駅の自動切符販売機を見てみました。これもお金を入れることが難しく、押しボタンも小さくて間隔がせまいので、手の緊張が強い人は目的地のとなりのボタンを押す可能性があることがわかりました。しかし、点字の案内はついていました。

日を改めて、七尾市内の自動販売機を見て歩きました。あるスーパーでは、自動販売機の前にたくさんの自転車が並んでいるではありませんか。これでは車いすでは買いに行くことができない状態でした。

歩道にある自動販売機は、溝の向こうに設置されていたり、坂になっているところもありました。これでは「障害者はジュースを飲むな」と言わんばかりではないでしょうか。

そこで、次のことを提案します。

- ①手の不自由な人でもお金を手軽に入れるように、投入口をお皿のように広くすることができないでしょうか。
- ②自動販売機の設置は、坂や溝のない安定した場所に設置できないでしょうか。
- ③視覚障害者のためには、点字か音声テープなどの工夫をして欲しいと思います。点字が無理なら、商品の並べる位置を統一する方法はできないのでしょうか。

最後に一言「障害者に便利な自動販売機は健常者にも便利」だと思います。皆さんの経験談を編集部までお寄せ下さい。

改良して!! 自動販売機

在宅障害者

今、私たちの周囲には、身近な存在のジュースやお酒から食料品、衣類、生理具、切符や各種カードの販売機まで、さまざまな自動販売機があります。それは生活の一部となっています。

しかし、私たち障害者が日常生活していて不都合を感じるどころ、ここを改良・工夫すれば、もっと便利になると思う点も数多くあります。

例えば、私など肢体不自由者の場合には、今の両替機や自動販売機の多くが、せまい硬貨の投入口なので、なかなか硬貨を入れることが難しく、容易に投入することができなくて、難渋することが多いです。

また、その取り付け位置も高く、車いすでは使用しにくいのです。それに、不自然な姿勢でピンなどを取り出さなくてはならないのです。

そこで、私は現在ある各種の自動販売機や公衆電話の硬貨の投入口なども、ロート形や十文字にするなどの簡単な改良によって、私のような手の不自由な人でも、ずいぶん容易に使用できるようになると思います。

それから、テレホンカードや各種のカードを使用していて感じるのですが、使用後に返却口から出る先端が少しなので、手先の不自由な私などは、なかなか取り出せなくて苦労をします。

そこで、手の不自由な人でも簡単にカードの出し入れがしやすいように、カードの頭部がもう少し出るように工夫していただきたいと思います。

また、各種の自動販売機に点字の表示や販売品を音声テープで知らせるなど、ちょっとした工夫をすることで、盲人などの人なども簡単に使えるようになります。

このように簡単な改良や改善をすることで、私たち障害者にとっても自動販売機は、より便利で使用しやすいものになるのではないのでしょうか。

自動販売機

在宅障害者

「わたぼうし新聞」編集委員の方より、「自動販売機」について思うことを書いて欲しいと、お電話をいただいてから改めて意識するようになりました。

そう言えば、こんなことがありました。それは銀行の口座を作るときには、考えもしなかったキャッシュカード利用によるエピソードですが……。

デパートで買い物をするために、キャッシュカードでお金を引き出そうとしました。

かろうじてカードがセットでき、終了の手順前までできましたが、手が疲れて力が指先にはなく、カードを取り出せず、カードは引っ込んで出てきて、また引っ込んで繰り返してました。繰り返すうちに、腕がいつそう疲れて、余計思うように手が伸びなくなり、ついにはブザーが鳴り、カードは引っ込んだまま、この状態に一瞬、呆然としてしまいました。

銀行に連絡したくても、インターホンを押すこともできず、どうしようもなく行きずり

の人に頼みました。インターホンで銀行へ連絡してもらい、係の人に「カードが取れなかっただけで……」と説明しながら、『機械とおっかっけっこ』した状況が思い浮かび、ますます情けなく、心の中で「銀行強盗しようと思ったわけじゃないのですのに、少しお金が欲しかっただけなのに、機械のトラブル……」。

それからは、暗証番号を道行く人に「証し」ながら利用するようになりました。こんなことでも、私たち障害者にはプライバシーがないのかと、痛感したものです。

自動販売機・盲人の立場から 地域住民・視覚障害者

私は自動販売機をよく利用します。最近はどこにでもありますので、便利なのだが困ることもあります。それは種類の多さであります。

私の場合はジュース類が主なので、100円玉しか入れません。しかしながら、コーヒーやウーロン茶が出てくるとがっかりします。

この前など、ダイエー前の自動販売機で何があるか分からぬままボタンを押したら、コーヒーが出てきて、残念と思いながら飲んでいると、一本当たりのアラームがなりました。今度こそジュースかと期待して隣のボタンを押したら、これもまたコーヒーで全く情けない思いをしました。

私の夢は、全国の販売機に値段と品物が分かるように点字表示をすることです。せめてジュースかコーヒーかの区別ぐらい販売機のボタンの形を変えられることができればうれしいのだが……。

編集局より

今回のテーマ「障害者と自動販売機」を読んだ感想はどうでしたか。ここに投稿をいただき指摘されていることは、ほんのひとかけらに過ぎないと思います。

しかし、一方視点を変えて考えてみると、何も高いお金をかけて自動販売機を改良するよりも、周囲の人の温かい援助があれば解決することではないでしょうか。人の心の問題だと思います。皆様のご意見をお聞かせ下さい。

次回テーマである「障害者と交通機関」について、皆様のご意見、経験談がありましたら、自動販売機と同様に同封のアンケート用紙をご利用いただければ幸いです。

もの知り博士登場

生活施設について

読者のみなさん、こんにちは。「わたぼうし新聞」が20号を迎えられておめでとう。ワシより御祝いの言葉として言わせてもらおう。

さて、今回はシリーズ施設についての2回目として、生活施設について講義を行う。

この施設は、法律上においては身体障害者療護施設と身体障害者福祉ホームの2種類が設けられている。前者は常時の介護を必要とする重度身体障害者を入所させて治療及び養護を行う施設であり、入所定員は50名以上とされている。それに対して、後者は、日常生活を営むのに支障のある身体障害者に対し、低額な料金でその日常生活に適する施設を利用させるとともに日常生活上の便宜を供与する施設であり、定員は10名以上である。

療護施設が福祉事務所の措置による入所施設であるのに対し、福祉ホームは利用者と経営者との契約による利用であること等において、両者は異なる運営形態をとっている。

今回は作業施設について講義を行う。皆さん「食欲の秋だ」と言って食べ過ぎて、太りすぎて気をつけて頑張ろう。

(参考文献・介護福祉士養成講座「障害者福祉論」・中央法規出版)

ワンチャン・ニャンチャン大集合

～ワンチャンの巻～

地域住民

・名前 チャー

家には現在、4ヶ月になるオスの子犬がいます。子供が連れては来たものの、骨折していたものですから、入院、手術と大変でした。

費用は16才になる息子が出しましたが、退院して来て、まだ、糸も取れないうちに、家の中を歩き回って、動かさないようにするのに苦労しました。

今では完全によくくなったので、本来のやんちゃぶりを充分に発揮しています。どれだけやんちゃでも、足を引いてやっと歩いていることを思いますと、これでよかったんだと思いますし、子供たちも妹を見る目で可愛がり、大事にしてくれます。

今度こそ、事故で死なすことなく、末長く家族の一員としていてくれることを願っています。

ワンチャン・ニャンチャン大募集中＝

このコーナーに登場してくれるあなたの家のアイドル、ワンチャン・ニャンチャンを広く募集しています。

また、変わった特技、性格を持っているワンチャン・ニャンチャンを飼っていませんか。「季刊わたぼうし」に紹介していただけませんか。たくさんの仲間を募集しています。

なお、写真は印刷できませんので、似顔絵かイラストを添えて下さい。

各地の催し物に参加して 石川県脊髄損傷者協会運動会

～6月～

6月10日（日）、金沢市むつみ体育館において、県脊髄損傷者協会の運動会が行われました。参加人数は会員、ボランティアなど40名程でした。車いす借りもの競走、むつみ体育館の周囲を回る車いすマラソンなどが行われていました。

なかには、家族連れで参加をしている選手もあり、日頃のストレスを忘れてスポーツやゲームに打ち込んでいました。みんな、賞品をもらいニコニコな顔で帰宅して行きました。

七尾からこの行事の取材に出かけ、新しい金沢駅を利用しました。しかし、駅周辺の歩道の坂になっている場所で車いすごと倒れました。いくら駅が新しくなっても、整備されていない金沢駅周辺の歩道であることをつくづく感じた取材でした。(Z.O)

第4回ふれあい福祉まつりについて

6月17日（日）、金沢市長町研修館において、第4回ふれあい福祉まつりが行われました。野外コンサート、バザー、施設で作られた製品の販売、自助具の展示、これからの催し物のPR、祭りのカルチャーウオッチングなどが行われました。次ぎに参加された方の感想を掲載します。(Z.O)

昨年までは、県の福祉会館で開催されていましたが、今年は金沢市長町研修館において開催されました。当日は天気もよく、一日を楽しく過ごしました。

館内ではいろいろな団体がバザーを開いていましたし、野外ではステージを作り各種の催し物があり、その周囲にはテントが作られ、いろいろな食べ物を売っていました。

ボランティアの人びとも多くいました。ことしは結構手作りのお祭りという感じが私には思えました。障害者も健常者が一体となって盛り上がっていたようです。

こうしたふれあいが一番よいことではないでしょうか。一日だけではなく、一年中ふれあいたいものです。ことしは考えさせられた一日でした。来年も楽しみにしたいものです。

(N. K)

ふれあい福祉まつりでは、車いすに乗っての文化めぐりがありました。10名がボランティアとともに、長町武家屋敷界限を見て歩き回りました。

普通の観客は物を見て、景色を見るのに目を使います。しかし、私たち車いす利用者の場合は、歩く足元にも絶えず神経を使います。段差、斜面、凸凹……。

金沢の道は狭いだけでなく、障害者には本当に歩きづらい道です。歩道はあっても狭かったり、歩道への乗り上げにも段差や微妙な溝があって、車いすがゴツツンとはまってしまうのです。

「おもしろい」と言っは変ですが、車いすに乗ってみるとわかります。武家屋敷通りの石敷き畳みの道は、お尻がモゾモゾとむずがゆくなって困ります。アスファルトならス

ーッとしてこんな状態？ はありません。良かれと思って設計・施工されたことが、かえって不便ということもあるのです。

参加者の中からは、市役所の新採用者研修として、彼等が車いすに乗って市内をまわってみたらどうです。とか、市の幹部を車いすに乗せて押してみますと、私たちの気持ちがよく分かります。といった声も聞こえました。街作りとは？ 何かを市役所の人とともに反省、討論会をしました。それにしても、良い天気と名（迷？）ガイドに恵まれ、観光客なら見落としてしまう江戸時代の知恵を見聞できました。野村邸のご好意で無料入場もでき、ある者は抱っこ、おんぶされながら、見学することもできました。

(M. U)

これからの催し物情報

「北陸東海車いす市民交流集会」参加者募集中 !! 《9月》

・主 催：「北陸東海車いす市民交流集会」実行委員会

・期 日：1990年9月22日（土）～23日（日）

・会 場：石川県社会福祉会館

・交流会場：金沢市シティモンド・ホテル

・費 用：

A. 両日参加（交流会・宿泊含む） 9,000円

B. 両日参加（交流会含む） 6,000円

C. 一日又は両日参加（交流会除く） 1,500円

・申し込み先

金沢市安江町5-28（障害者自立センター）

☎ (0762) 32-2973 FAX (0762) 32-2973

・内 容：交流会

分科会（生き方とくらし、道具（設備）と制度、介護）など。

・基調講演：牧口 一二（グラフィックデザイナー）

・開催趣旨

「オギャー」とうぶ声あげたその時から、ひとつの命が人びとの暮らしに関わってくる。そして、ものの見方・考え方は生まれ育つ文化の中で培われて仕事・結婚へと暮らしを築いて行きます。

そこで重度の障害を持つ私たちの暮らしとはどのようなことなのか考える時、今までの機能回復訓練により生活動作ができるようにといった狭い考え方では可能性を見つけ出せず、障害者の多くは社会と遠く離れた所（病院・施設）で暮らしてきたように思うのです。

日本海側と太平洋側の地域性の違いをとらえ、私たちの暮らしを補うものが何であり、本当に一人一人が市民として暮らす、くらしの可能性を考えて行くための集会を目指しています。

‘90走れひまわり号

《10月》

- ・期 日：10月21日（日）金沢駅朝7時集合 8時出発、午後6時30分散
- ・行き先：滋賀県長浜
- ・募集人員：600名
- ・参加費：大人5,000円 中高生4,000円 小学生3,000円（保険料含む）
- ・申し込み期間：8月1日～9月10日
- ・問い合わせ先：〒921 金沢市大桑町タ1-18
ひろびろ共同作業所内
‘90ひまわり号を走らせる 石川県実行委員会
☎（0762）42-8861

第4回石川県風船バレーボール大会

《11月》

- ・期 日：11月25日（日）
- ・場 所：松任市総合体育館

この風船バレーボールは来年の「ほほえみ石川大会」の公開種目です。

わたぼうし広場

「あしたも、また来て下さい」

地域住民

看護婦の道をすべり出した18才の頃、「患者さんに接するとき、どのように接するか」と聞かれ、「すべての人に愛情を持って接する」と答えました。

そのとき、婦長さんは「それは危険だ」と言いました。「愛」という意味を知らなかったからでしょう。しかし、このことはとても難しいことです。それを体験できた有意義な2年間でした。「私の側には必ず神様がいるのだ」と分かった2年間でした。

実習に出て、ある癌末期の患者さんと接しました。この患者さんは自分のことをうまく表現できず、そして、とても我慢強い方で、コミュニケーションをとるのがとても難しい方でした。

訪床時は自分のして欲しいことだけを告げ、あとはこちらから話しかけても、最小限の言葉しか返ってきませんでした。そういう状態でしたので、訪床回数も少なくなりがちでした。

ある日、祈りの後に「何も話しかけてくれないのがいやで、患者さんを避けていて、何も愛情がない」と思いました。それからは、訪床を多くしました。

ある日、患者さんの痛みが強いときに、何も言わずにずーっと手を握っていたことがありました。そのうちに状態が思わしくなく個室に入りました。その受け持ちの最終日、「あしたもまた来て下さいね」と言われたとき、実習最終日であったということを告げられな

くて困りました。

私は何もすることができなくてつらい思いをいたしましたけれど、患者さんは私のことを待っていてくれたことを知って、うれしくて涙が出ました。この患者さんは1ヶ月後に亡くなりましたが、実習日以外にも訪床すると必ず「また来て下さい」と言って下さいました。

この患者さんと接するとき、いつも神様に祈って実習に出かけました。「愛情を持って接したか」と言われても、あまり自身はありませんが、まず祈ってから接したのが良かったのではないかと思います。

この姿勢を忘れず「また来て下さい」「また来てくんとし」（小松弁）と言われる看護婦になりたいです。

「わたぼうし新聞」を読んで

一読者より

一年程前に、ある編集者から「わたぼうし新聞」を送っていただき、それ以来ずーっと購読させていただいています。いろいろな方の原稿を読ませていただいて、ぼーっと何げなく生きていたら絶対に気付かないであろう生きることの大切さ、素晴らしさを教えられるような気がします。

時々、ある施設に夜、編集者をお訪ねするのですが、いつも決まってわたぼうし新聞の原稿をワープロで打っておられます。

新聞の表紙にあるように、「障害のある人、ない人が自由にそれぞれの考えを出しあい、主義、主張を越えて、お互いを理解する中から共に生きる社会を作って行きたい」。そんな編集者の心の願いが本当に伝わってきます。

私も真心を持って隅々まで読まなければと思っています。この新聞が多くの人に読まれ、心の触れ合う場となることを祈っています。編集者の皆さん、これからも頑張ってください。

心の支え

地域住民

この原稿を依頼された日に、子供の頃「石川整枝学園」に入園していた仲間たちが久しぶりに会うことになりました。

それぞれ自分の障害に打ち勝って、社会人として働いている人、ドッカと主婦の座に座り家庭を守っている人など、20名近くが片山津温泉に集まりました。

現状報告や昔話に花が咲き、夜遅くどころか朝近くまで酒を飲み語り合いました。

40歳前後の人がほとんどですが、この日ばかりは30年前の童心に返って、男も女もなく学園の歌にもあるように『兄弟のように睦まじく……』でした。

学園を出たばかりの頃は、頻繁に会っていましたが、年を重ねるにつれ、会う間隔が長くなり、最近では数年に一度しか会えません。それでも、会うと昨日まで一緒にいたかと思う程の親しさで話し合うことができます。私はこの仲間たちとの集まりが大好きです。

この年齢になりますと、一般健常者同様にお金、子供の教育、仕事のことなど、様々な問題に立ち向かわなければなりません。そのうえに障害者というハンディがいろいろな形で重なってきます。

でも、障害者だからというを理由でこれらから逃げ出すわけにはいきません。子供の頃、よくからだが不自由だからという理由で、いろいろな作業などを免除されることがよくありました。

私には苦い思い出があります。学園を出て普通の学校へ戻ったのが、中学2年生のときでした。

親の方から学校への申し込みもあったのですが、朝と帰りの掃除当番が免除されました。体育は当然のように見学です。今、振り返ってみれば、掃除も体育もやろうと思えば、少しながらもできたはずなのです。当時、私は免除されることは当たり前だと思っていました。完全に障害を口実に甘えていたのです。

さらに悪いことに、機会がある度に学園で覚えたソフトボールや卓球に参加していました。そのときは、障害でもこれくらいはできるんだと主張するつもりだったかも知れませんが。

そんな私を見て当然クラスメイトから、掃除や体育を免除されているのに「お前は何だ」当然注意されました。

それでも反省するどころか「私は障害者だから」と居直りの気持ちを持ったことを、今も覚えています。恥ずかしい限りです。

心の中に自分の都合の悪いときは、「障害者だから」、という逃げと甘えの精神がコビリついていたのでした。

そんな精神も社会に出て、一般健常者の中で揉まれ、苦い体験を繰り返しながら徐々に分かってきました。障害者だから必要なときには、感謝しながら人の手を借りましょう。体力的に無理なことは、「コゲメンナサイ」と言って、免除してもらいましょう。

でも、できることややらなければならないことは、健常者に負けないくらいのファイトで立ち向かって解決して行きましょう。

私の場合、この頑張りや心の支えになるのが、学園時代の仲間たちなのです。皆が頑張っているから、自分も負けられません。誰かが困っていたら、お互いに力を合わせて助け合いたい、そんな仲間たちなのです。

温泉旅館を出てからも別れがたく、昼頃まで一緒におりました。今度、いつ会えるか分かりませんが、何かあればいつでも声を掛け合って、長く長くこの集まりを大切にしたいと思いつつ、ハンドルを握りながら家路につきました。

身障者の体力向上

「ほほえみの石川大会」に向けて各地でスポーツ教室を開催中 !!

来年の「第27回全国身体障害者スポーツ大会」開催を控え、県と県身体障害者連合会は今年の夏から来年初めにかけて、体の不自由な人たちを対象とした初めてのスポーツ教室が開催されています。

このスポーツ教室は、体の不自由な人の体力づくりに役立てるとともに、社会参加の機会を増やしてもらおうと開かれています。石川県内に住む15歳以上が対象で、障害急歩やスラローム・跳躍・投てきなどの陸上競技をはじめ、アーチェリー・水泳・卓球・盲人野球の5つの競技で、それぞれの障害に応じた指導をされています。

「スポーツ教室」開催計画表

種目	指導機関	場 所	回 数	日 時	備 考
ア チ ェ リ 	石川県アー チェリー協会	小松市サン・アビリティ ーズ (小松市符津町)	約8回 (8~9月)	毎週水曜日 19時~21時	アーチェリー4セット (共有) 有
		KBSアーチェリー (金沢市三ツ屋町)	約8回 9月18日~11月	毎週火曜日 18:30~20:30	アーチェリー4セット (共有) 有
		青山彩光苑 (七尾市青山町)	約8回 8~11月	毎週第2~4 水曜日16~17時	アーチェリー4セット (共有) 有
水 泳	石川県 水泳協会	松任市総合運動公園 室内プール (松任市倉光)	約8回 9~12月	毎月2回 日曜日 2時間	
卓 球	石川県 卓球連盟	金沢市むつみ体育館 (金沢市駅西本町)	約8回 8~10月	毎月2~3回 日曜日 10~12時	
盲 人 野 球	石川県視覚 障害者協会	県立盲学校 (7~8月は金沢市む つみ体育館)	約8回 7~2月	毎月第4日曜日 13:30~16時	
陸 上	石川県陸上 競技協会	石川県陸上競技場 補助競技場 (雨天の場合は屋内)	各種目3回 9~11月	日曜日 2時間	障害急歩 スラローム 跳躍等

・問い合わせ先 〒920 金沢市本多町3丁目1-10 石川県社会福祉会館内
石川県身体障害者団体連合会

☎ (0762) 24-1212

第27回全国身体障害者スポーツ大会 ほほえみの石川大会

ほほえみに 広がる友情 わく力

大会日程：平成3年10月26日(土)~27日(日) 開催地：金沢市・松任市

本の紹介

さらば、木偶の詩

下出 幸著作 自費出版：一部1,000円

手の不自由な作者がワープロを手段として練り上げたこの文は、彼の主張であると同時に生き方かも知れません。

主張するということが如何に大切に価値があるかを識った時、彼自身しっかりと生きて行けるのだから。

遠慮がちな彼の文体のなかから、そこにははかさない温もりと、人間臭さを感じられました。あなたは温かい人。人間らしい人。(出版によせてより抜粋)

原稿募集について

今回のテーマ「障害者と交通機関」について、原稿を広く募集しています。最近では車いすの人でも一人で列車を利用して、旅や買い物に行く人が増えています。そのときの体験談、困ったことなどをお寄せ下さい。

次号より新しい企画として、読者への質問、あなたの日常生活における悩み事を問いかけるコーナーを設けますので、どしどし質問をお寄せ下さい。

機関紙名改名について

当機関紙を「わたぼうし新聞」と呼んでいましたが、新聞として意味合いが薄い内容と思います。それにより、編集会議にて協議の結果、次号より「季刊わたぼうし」と改名させていただきます。(春、夏、秋、冬号を送付)

編集後記

6年前に一台の和文タイプライターとの出会いによって、障害者と健常者の交流の場を作れないかと思って生まれたこの機関紙。それが文明の発達によって、編集方法もワープロに変わってきています。障害者と健常者。いや、同じ障害者の仲間同士が障害の程度、種類によって、差別が発生してきている現代社会。それがなくなる社会になるまで、この機関紙を発行し続けたいと思っています。皆さん、今後も応援して下さいね。(Z.O)

「わたぼうし新聞に原稿を下さい。わたぼうし新聞はこんな新聞です」。と言って広げてみてもらう。「何か思っていることがあったら、原稿を書いて下さい」と言ってお願いをします。日頃、思っていることを文章にすることが得意でない、自分が厚かましくお願いを重ねます。皆さん、これからもよろしく願います。(T.K)

ただ今、「障害者と交通機関」について原稿募集中=
21号のテーマは「障害者と交通機関」